

2023年3月期
通期決算説明会（2023年5月17日開催）資料

2023年5月12日

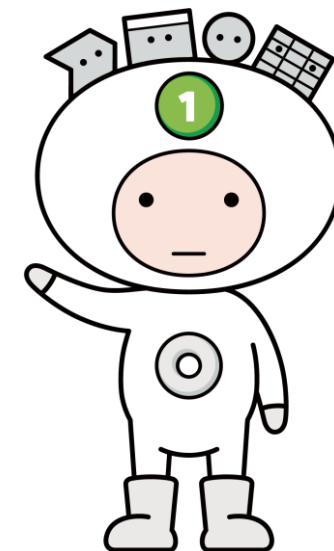
株式会社BlueMeme



目次

2023年3月期 通期業績	P 3
営業推進への投資	P 10
人材採用・育成への投資	P 14
研究開発への投資	P 18
2024年3月期 通期業績予想	P 23
当社グループの成長戦略	P 25
その他の取り組み	P 29
注意事項	P 31

(注) 当資料における金額表記は小数点以下切捨てとし、原則パーセンテージ表記は小数点第2位を四捨五入としております。



Full-Year Results for the Fiscal Year Ending March 31, 2023

2023年3月期 通期業績

2023年3月期 通期連結決算ハイライト

- 売上高は、ほぼ想定通り推移し業績予想に対して約97%で着地した。
- 連結当期純利益は、「賃上げ促進税制」「研究開発税制」の適用条件に該当し、法人税等が低減したことに加えて、第4四半期の人材採用に係る計画が未達となったことにより、2023年2月14日に発表した業績予想値に対し約136%と上振れて着地した。

単位：百万円

	2022年3月期 決算数値	2023年3月期 決算数値	2023年3月期 修正予想値 (2023年2月14日開示)	2023年3月期 修正予想比
連結売上高	1,929	2,244	2,317	96.8%
連結営業利益	363	309	255	121.5%
連結経常利益	348	310	254	121.8%
連結当期純利益	253	230	169	135.7%
1株当たり 連結当期純利益	78.48 円	65.64 円	—	—

(注) 「1株当たり連結当期純利益」を除く金額は百万円未満切捨。

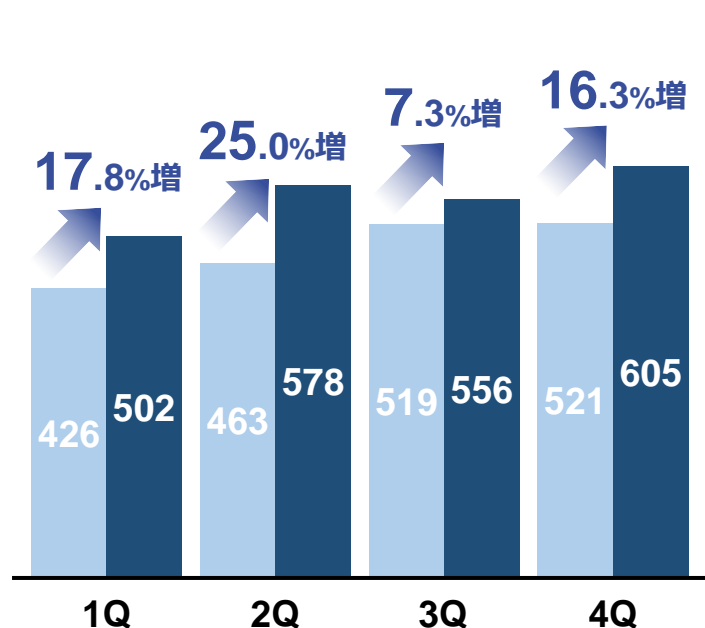
四半期別連結業績推移

- 売上高は、すべての四半期において対前年同期比増を継続して実現した。
- 年間を通して、営業推進、人材採用・育成、研究開発への投資を積極的に実施した。

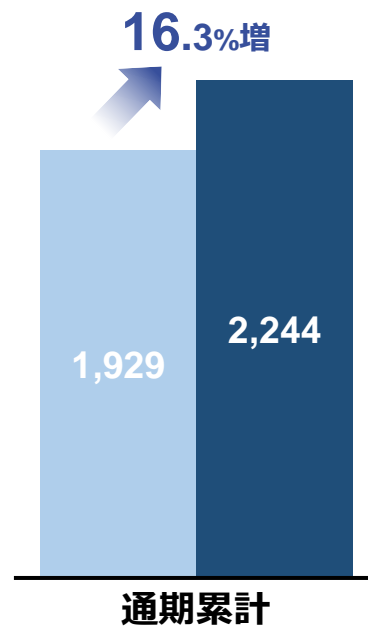
単位：百万円
(百万円未満切捨)
■ 2022年3月期
■ 2023年3月期

連結売上高

四半期別推移

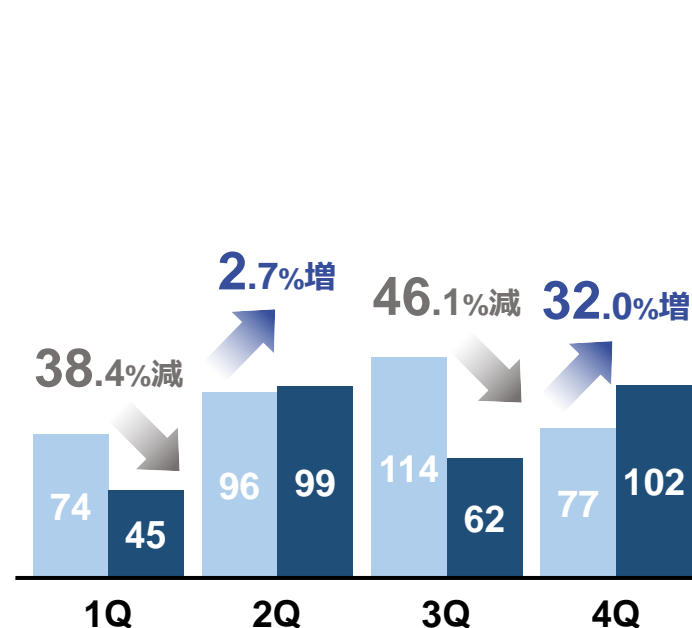


通期累計推移

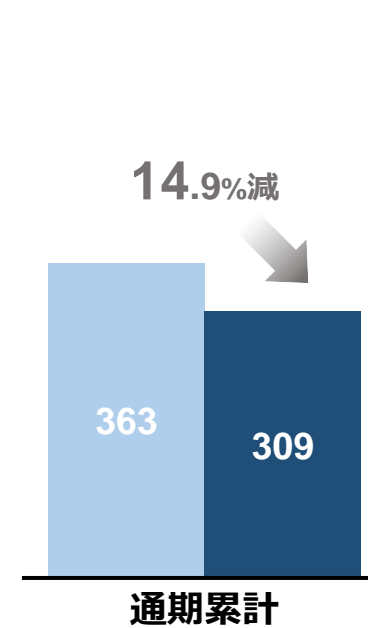


連結営業利益

四半期別推移

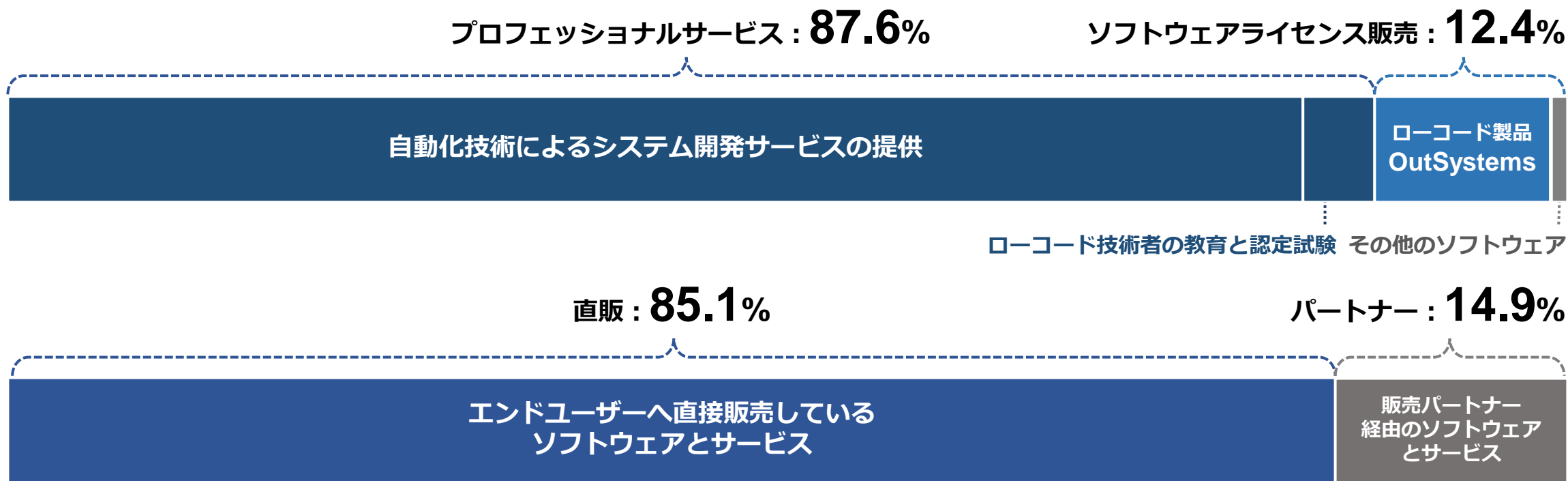


通期累計推移



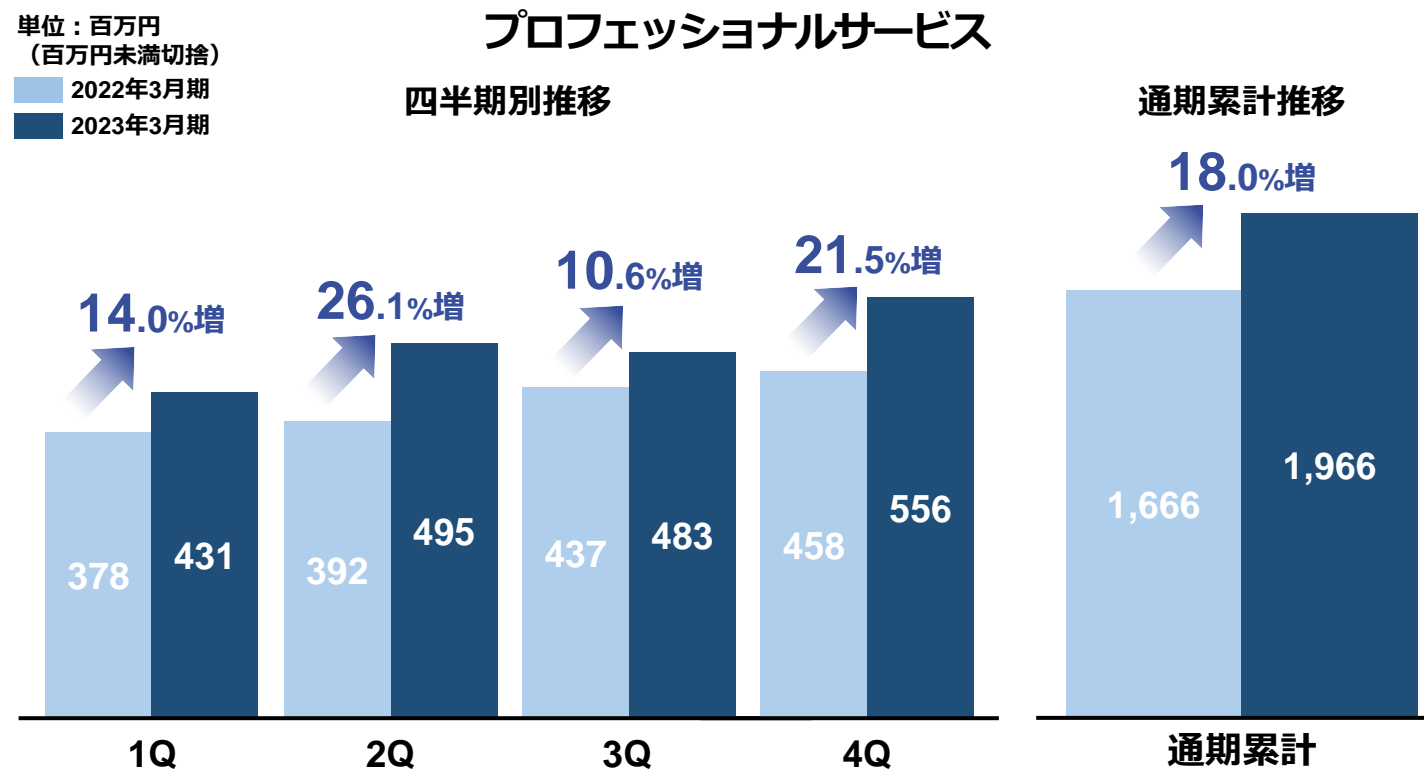
サービス別連結売上高構成比

- 今期も継続して、当社グループの主力であるプロフェッショナルサービスの提供による売上高が、全体の9割近くを占めた。
- 当社グループがエンドユーザーへ直接販売する比率についても、約85%と高い水準を維持した。



プロフェッショナルサービス四半期別連結売上高推移

- プロフェッショナルサービス単体の売上高は、すべての四半期で対前年同期と比較して着実な成長を実現した。



通期連結営業利益の分析

- 成長戦略に基づき、主に3つの領域において積極的な投資を実施した。
 - ・ 金融機関、自治体、教育機関等の新規顧客領域に向けた体制構築等の「営業推進」
 - ・ 主事業であるプロフェッショナルサービスを担う人材創成のための「人材採用・育成」
 - ・ 次世代システム開発手法の実現に向けた「研究開発」

対前期比較

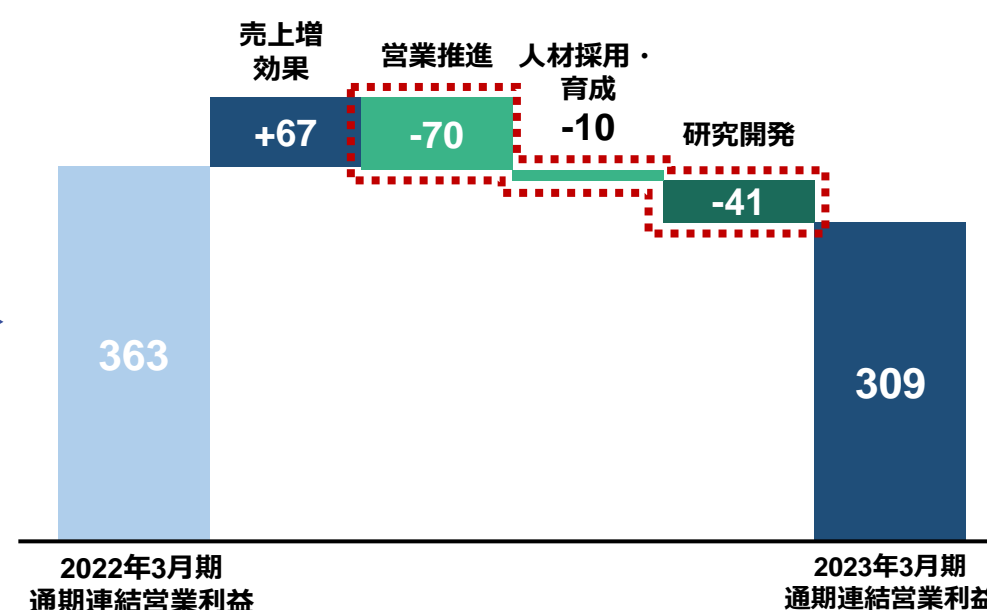
単位：百万円

	2022年 3月期 通期累計	2023年 3月期 通期累計	前年同期比	
			増減額	増減率
連結売上高	1,929	2,244	314	+16.3%
連結営業利益	363	309	-54	-14.9%
連結売上高比 営業利益率	18.9%	13.8%	-	-

(注) 金額は百万円未満切捨。

増減要因

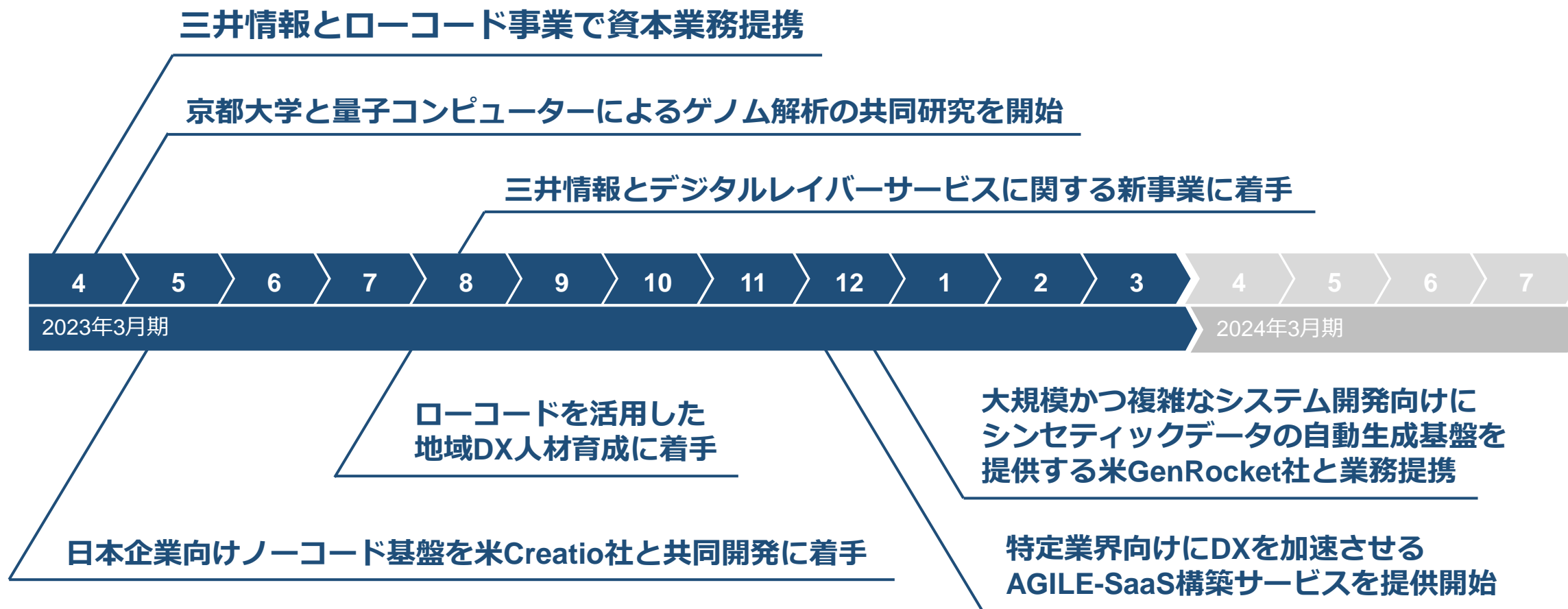
単位：百万円



(注) 百万円未満切捨。

2022年4月から2023年3月にかけての主な取り組み

- 2022年4月に発表した三井情報との資本業務提携を機に、さらなる事業拡大を目指し「新たな顧客領域への営業推進」「人材採用・育成の強化」「研究開発投資の拡大」に注力した。



Investment in Sales Promotion Activities

営業推進への投資

三井情報とローコード事業で資本業務提携

- 日本を代表する企業グループである三井物産グループのDXを支える三井情報と、DX推進とIT人材育成で合意した。
- 三井情報が有する豊富なIT人材を当社グループの取り組みに融合することで、ローコード及びノーコードを活用した次世代型DX人材の新規創出を加速させ、今後、急速に拡大が見込まれる顧客ニーズに対応する。
- 本提携により、当社は更なる業務拡大を行い、ローコード及びアジャイルを活用したDX事業領域のリーディングカンパニーを目指す。



当社独自の開発方法論「AGILE-DX」の提供で、地域の社会課題解決を支援

- これまで大規模なシステム開発を中心に、大企業に対してローコードとアジャイルの技術を提供してきたが、最新技術の適用が難しい地方自治体や教育機関に対して、「地域の社会的課題」の解決を目的とした技術提供を行なった。
- 琉球大学工学部 宮田龍太助教が中心となって取り組む、企業から寄付された食料品を子どもの居場所へAIで適切に分配するアプリケーションの開発プロジェクトに対して、当社独自の開発方法論である「AGILE-DX」を提供することで、アプリケーション開発の内製化と開発工数70%の短縮を実現した。
- 琉球大学とは共同研究開発やDX教育の推進を図り、当社の技術力の認知度と企業価値の向上を目指す。

プレスリリース

BlueMemeグループ、
琉球大学のプロジェクトで
ローコード×アジャイル手法により、
開発工数を約70%削減

当社独自の開発方法論「AGILE-DX」の提供で、
地域の社会課題解決を支援

bluememe openmodels 琉球大学
MODEL & DESIGN YOUR BUSINESS UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

The graphic features a dark blue background with three large, light blue arrows pointing upwards and to the right. The text is white and orange, providing a clear contrast.

最新技術を解説するオウンドメディア「LeapLeaper」を開始

- ChatGPT 等による検索技術を転換期において、当社グループが目指すシステム開発やIT業界の未来像を確実に伝えるために、量子コンピューターやバイオテクノロジー、AI、アジャイル開発、ローコード開発、など、幅広い情報を紹介する自社独自のメディア「LeapLeaper（リープリーパー）」を開始した。
- 公式な当社グループのホームページとは異なり、顧客側の目線に立った情報を発信することで、当社グループのファンを増やし、見込み顧客の拡大に繋げていく。
- 今後、主要なソーシャルメディアとの連携や検索結果の上位に本オウンドメディアを表示させる対策も実施し、多様なチャネルから集客拡大を目指す。

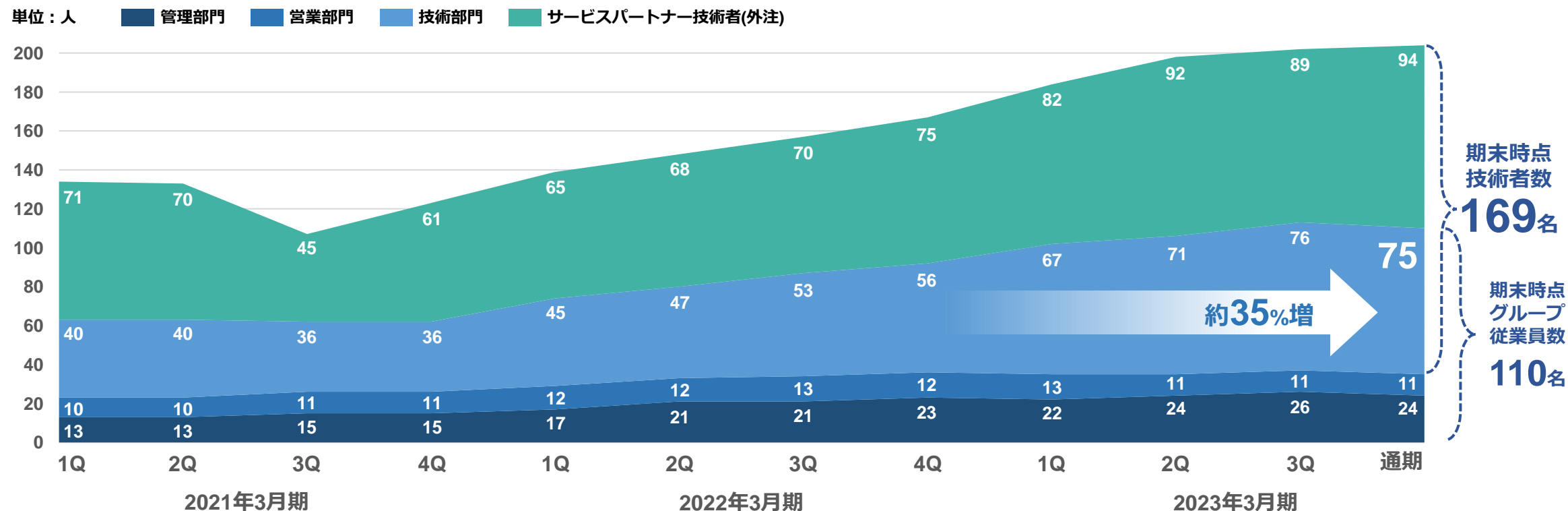


Investment in Recruiting and Training Human Resources

人材採用・育成への投資

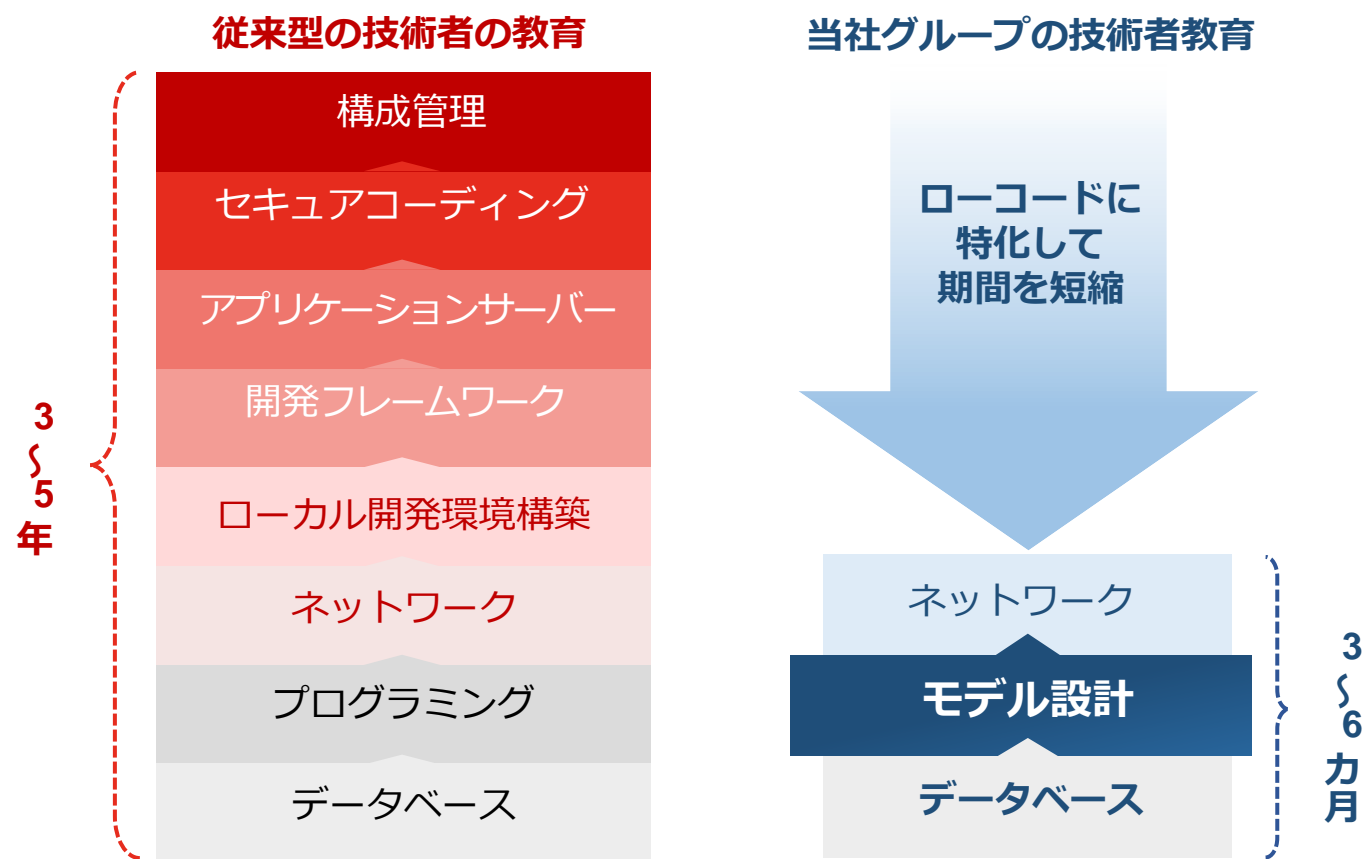
当社グループの人員数の推移と内訳

- 従業員数は、前期末比で約20%増加し110名となった。
- プロフェッショナルサービスを担う技術者は、新卒及び中途の未経験者の採用と育成を軸に、約35%増加し75名となり、サービスパートナー技術者を加えた当社グループ全体の期末時点の技術者数は169名となった。



当社グループ独自のアカデミー制度で即戦力の次世代エンジニアを短期育成

- 当社グループでは、独自のアカデミー制度を整備することで、従来3～5年程度必要だった技術者の教育期間を3～6カ月に短縮しているため、非IT人材を新規採用しても、その半数以上が約1年以内に「プロフェッショナルサービス事業」の技術者として活躍することができる。



地方自治体を主体とした「地域DX人材育成講座」を実施

- 当社グループでは、日本全体の人口減少による経済成長の鈍化という地方自治体が抱える社会的課題に対し、短期間で非IT人材を次世代型DX人材として育成することで、地域全体のDXを実現する取り組みを開始した。
- 沖縄県浦添市においては、一年間で約80人の次世代型のIT人材の新規創出を実現することができ、他の地方自治体からの視察の申し入れや、本講座を目的とした他市からの移住の事例もあった。

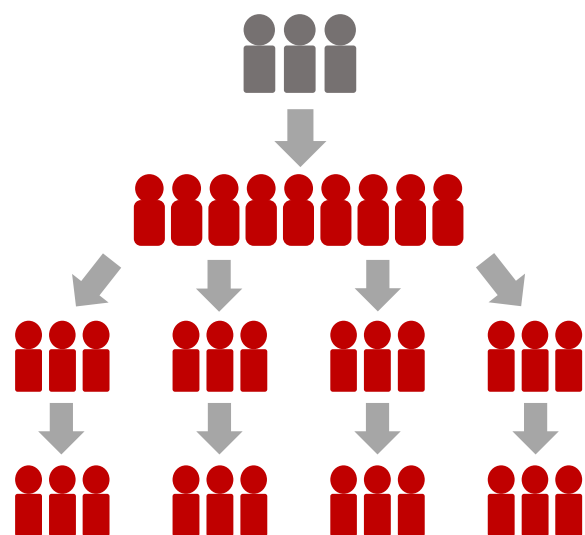


Investment in R&D

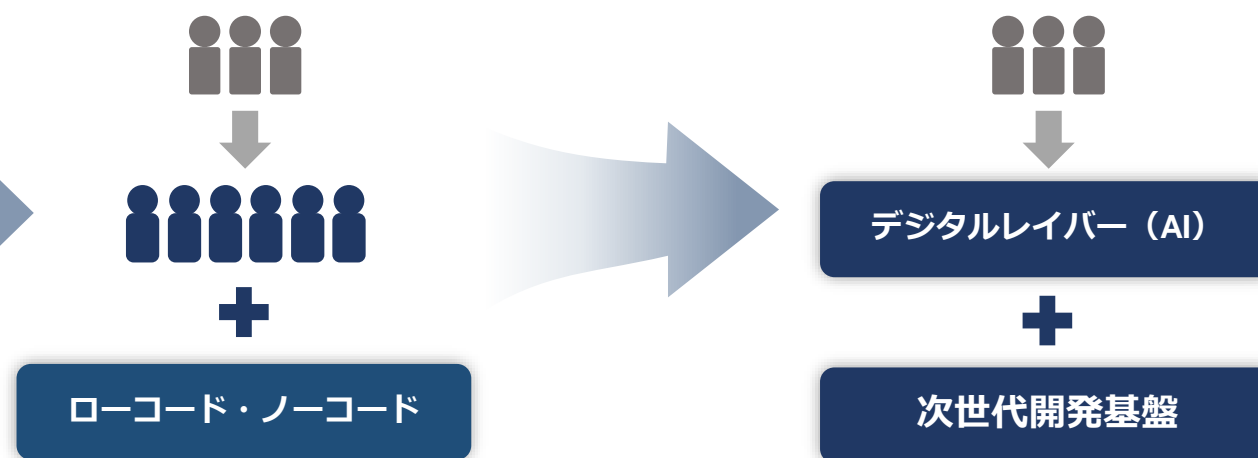
研究開発への投資

大量のエンジニアを必要とするシステム開発を「ゼロ」にする

従来型の 大人数のシステム開発



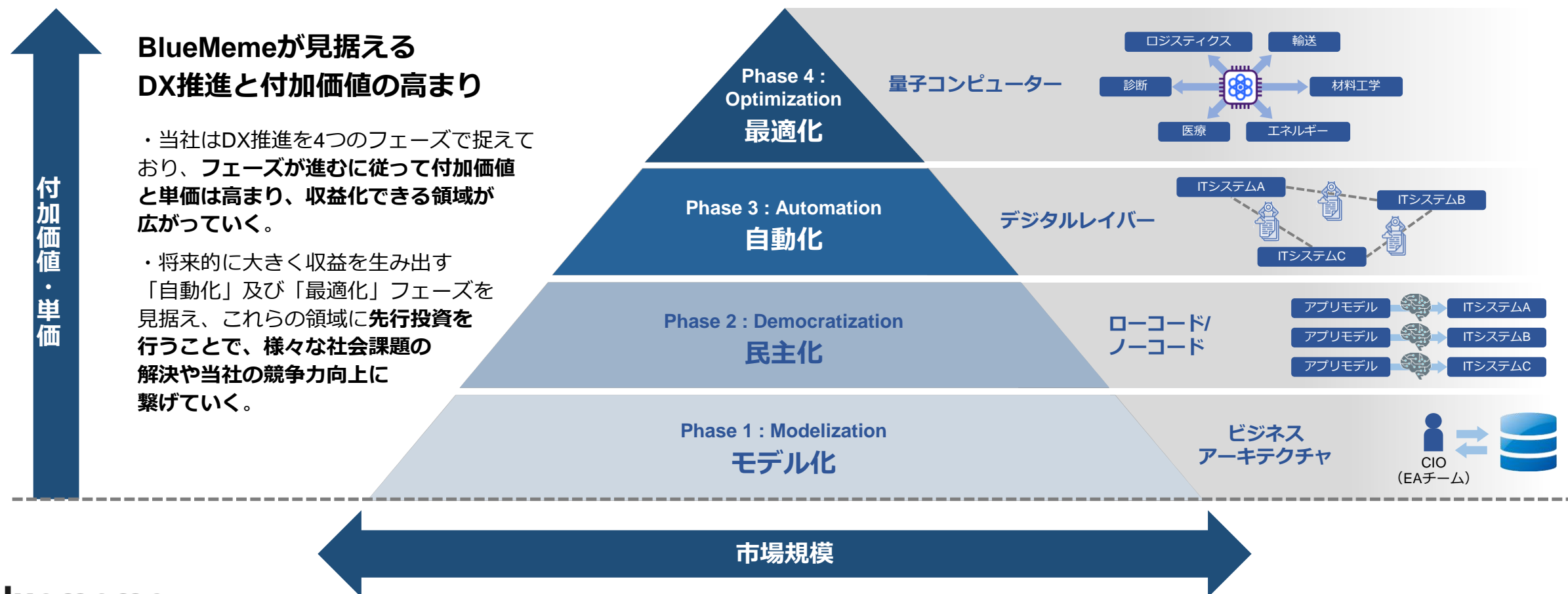
BlueMemeが実現する次世代のシステム開発



真の変革 (DX) にはシステム開発の自動化が不可欠

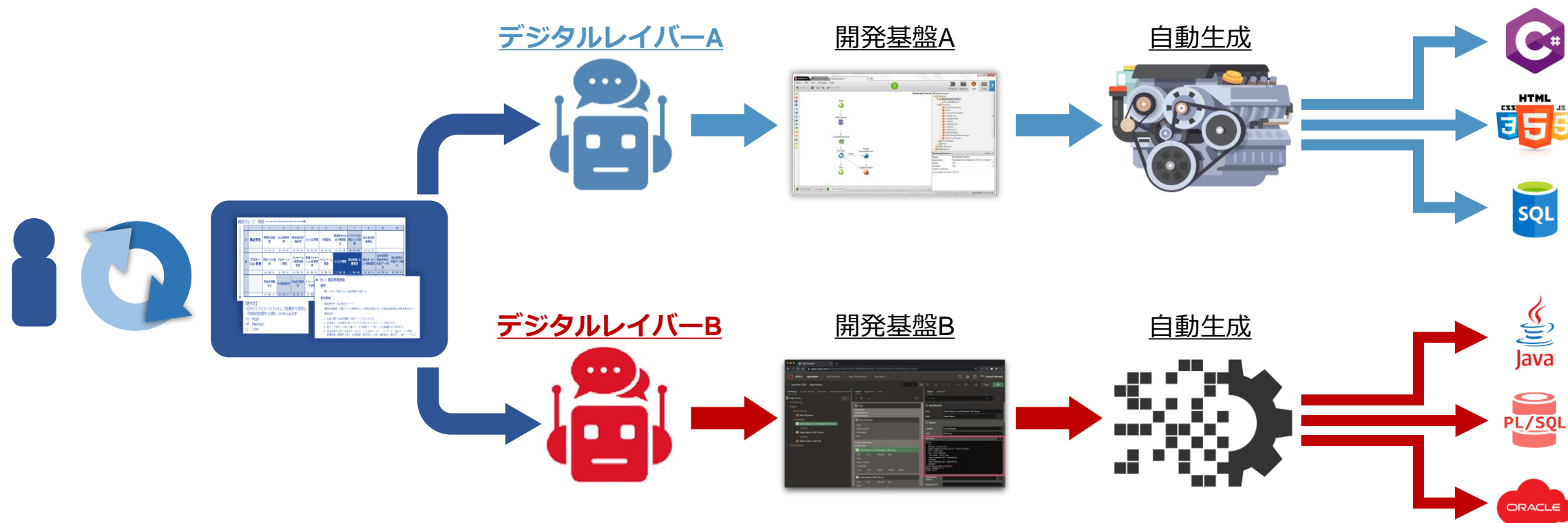
将来の事業戦略を見据えた投資の拡大

- デジタルレイバーによる「自動化」、量子コンピューティングに関する研究開発等を通じた「最適化」フェーズの到来を見据え、既存事業を着実に成長させつつ、将来に向けた人的資本、研究開発に対する投資を拡大する。



プロンプトエンジニアリングに対応した「デジタルレイバー」の共同開発

- AIの進化とローコードの技術革新に伴い、IT技術者の仕事はソースコードを記述するプログラミングから、AIやローコードツールに「作りたいシステムの内容を的確に伝える」という**プロンプトエンジニアリング**に移行すると考えられる。
- 当社グループでは、このプロンプトエンジニアリングを見据えた「デジタルレイバー」を開発することで、これから乱立する可能性のある「AIを活用したシステム開発」の効果的な活用を目指していく。



京都大学と量子コンピューターを用いたゲノム解析に関する共同研究を実施

- 量子コンピューターによるアルゴリズムの実装で、古典コンピューターが抱える計算量上限を克服することにより幅広い実社会での課題を解決することが期待されている。
- 当社グループでは京都大学 長崎 正朗 特定教授と連携し、病気・食料・環境問題の解決を目指す「ライフサイエンス領域」におけるゲノム解析をターゲットに、既存のゲノム解析アルゴリズムの計算タスクのうち量子コンピューターが力を発揮すると期待される計算タスクを積極的に代替し、その性能の検証を行なった。
- 今後も現在のコンピューティング技術では実現することが不可能な高度な「最適化」の領域の社会実装を目指していく。



Financial Forecast for Fiscal Year Ending March 31,2024

2024年3月期 通期業績予想

通期の連結業績予想

- 売上高は、引き続き対前期比18%増の継続的成長を目指す。
- 成長戦略に基づき、引き続き次の3つの領域において積極的な投資を実施する。
 - ・ 金融機関、自治体、教育機関等の新規顧客領域に向けた体制構築等の「営業推進」
 - ・ 主事業であるプロフェッショナルサービスを担う人材創成のための「人材採用・育成」
 - ・ 次世代システム開発手法の実現に向けた「研究開発」

単位：百万円

	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	対前期比 増減率
連結売上高	2,244	2,650	118%
連結営業利益	309	310	100%
連結経常利益	310	310	100%
連結当期純利益	230	230	100%

(注) 金額は百万円未満切捨。

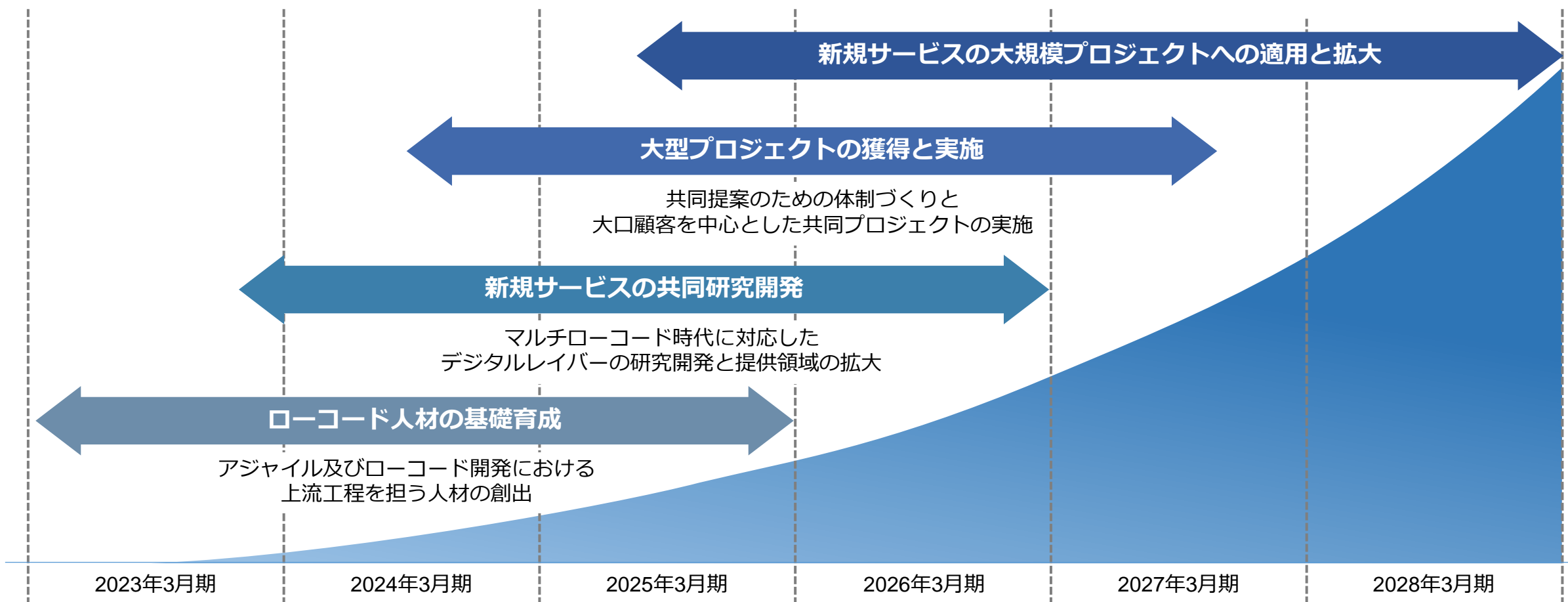
BlueMeme Group's Growth Strategy

当社グループの成長戦略

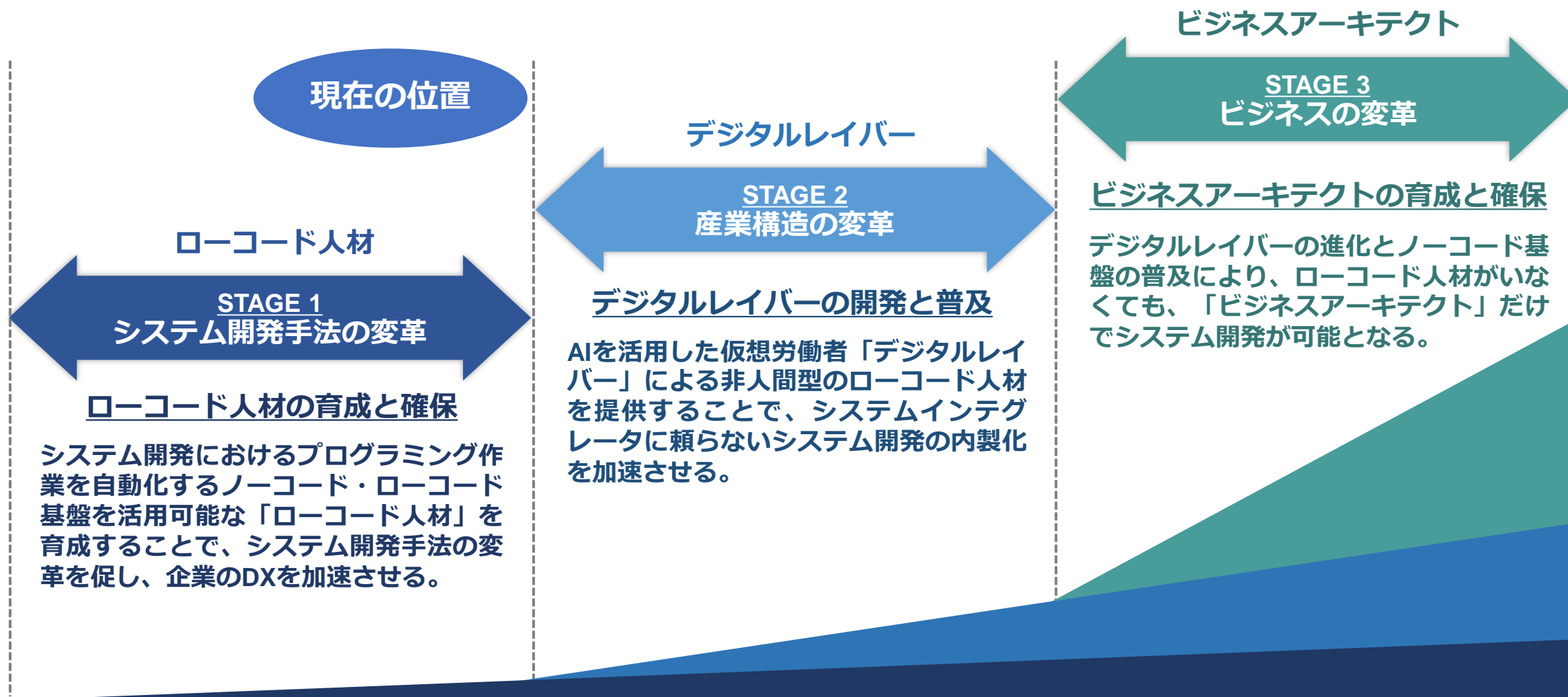
三井情報株式会社との資本提携による事業戦略推進の加速

- 既存事業領域だけでなく、将来に向けた当社グループ取り組みにおいても、積極的な協業を実施する。

- 三井情報との協業を通じた連結売上高拡大の方向性 -

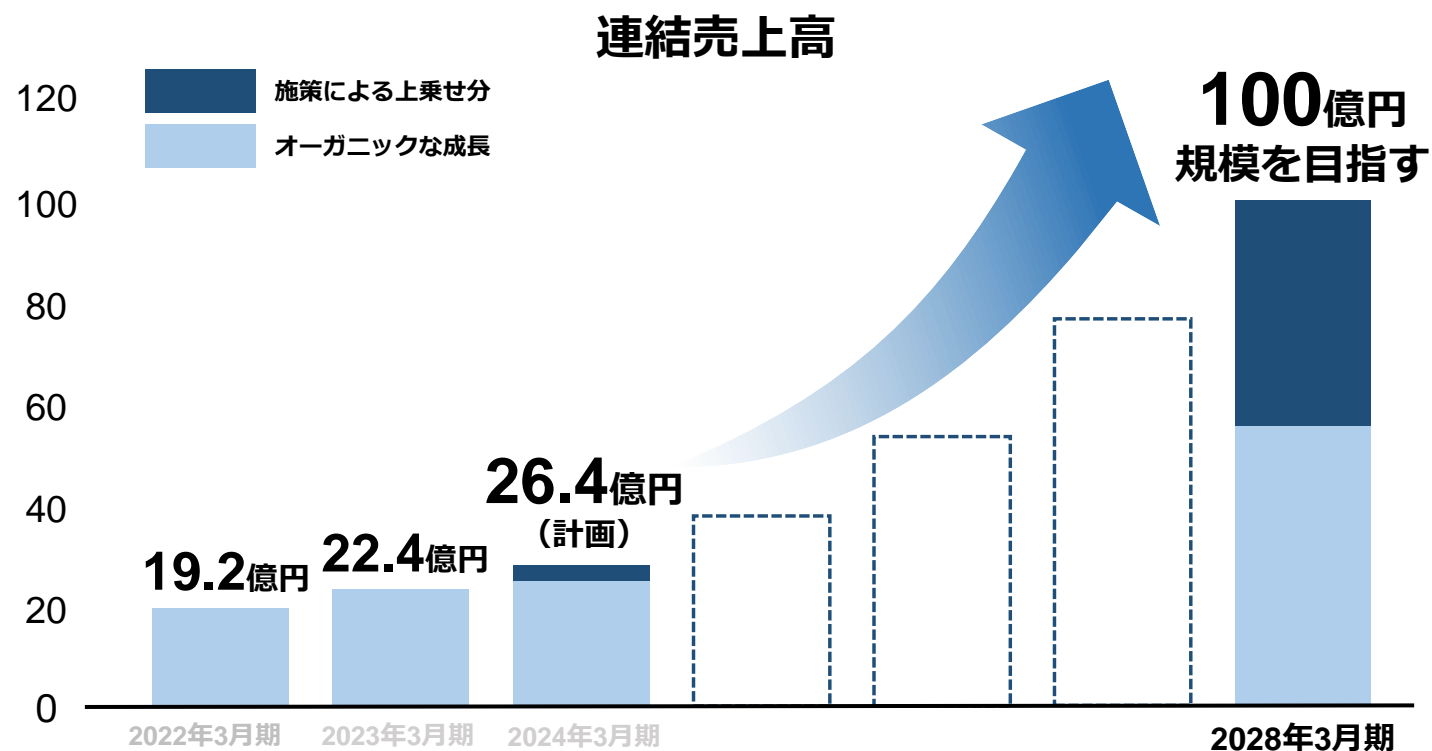


グロースドライバーと売上高のイメージ



2028年3月期にむけた成長戦略

- オーガニックな成長に加えて、新サービスの提供による売上の拡大を目指す。
- 事業規模の拡大を見据え、技術者のみにとどまらず組織強化・構造改革を目的とする投資も積極的に実施する。



施策

- 新規顧客数の拡大
- 既存顧客の維持と取引拡大
- 採用+育成によるプロフェッショナル要員の増加
- 稼働工数の増加と稼働率の引き上げ
- ソリューション領域の拡大
- サービス販売単価のアップ
- 新商品・サービスの開発及びアライアンスの拡大
- コアサービスの周辺事業の開発
- デジタルレイバーによる事業効率の改善

* オーガニックな成長は年率16-21%と想定（市場成長率16%に当社の市場優位性を5%程度と想定した。）
 * 2028年3月期におけるオーガニックな売上と施策による上乗せ分の比率は、5：5から6：4程度と推測。
 * 2024年3月期上期中の開示を目標に、中期経営計画策定中。

Other Approach

その他の取り組み

自己株式の取得

- 当社は2023年3月9日開催の取締役会において、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、以下の内容で自己株式取得を決議。引き続き、株式市場の状況及び事業戦略を考慮しながら、株主への還元策を重要戦略の1つとして機動的に実施する予定。

(1) 取得対象株式の種類	: 普通株式
(2) 取得し得る株式の総数 (上限)	: 140,000株 (自己株式を除く発行済株式総数に対する割合約4%)
(3) 株式の取得価額の総額 (上限)	: 200,000,000円
(4) 取得期間	: 2023年3月10日～2023年9月9日
(5) 買付方法	: 東京証券取引所における市場買付

- 上記に基づき取得した自己株式の累計 (2023年4月30日現在) は以下の通り。

取得した株式の総数 : 19,500株
株式の取得価額の総額 : 29,539,100円

Cautionary Points

注意事項

注意事項

本資料には将来の見通しに関する記載が含まれております。これら将来の見通しに関する記載は本資料の日付時点の情報に基づき作成しており、将来の結果や業績を保証するものではありません。これら将来の見通しに関する記載には様々なリスクや不確定要素が含まれております。このため、実際の業績や財務状況は、将来の見通しに関する記載によって明示的あるいは暗黙的に示された将来の結果や業績の予測とは大きく異なる可能性があります。

こうした可能性が生ずる要因には国内外の経済状況の変化、当社グループの属する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

当社グループは、将来の見通しに関する記載の、本資料の日付以降に発生する可能性のある新たな情報や将来の事象に照らしてこれら将来の見通しに関する記載を変更あるいは訂正する一切の義務を負うものではありません。

本資料に記載される当社グループ外の事項・組織に関する情報は、一般に公開される情報に基づいており、当社グループはこれらの情報の正確性・適切性を検証しておらず、保証していません。



Thank you for your time and attention.